

広島を訪れて

～私たちが学んだ広島の『過去』～

半田市立青山中学校 3年 今井心美

1. ツアーに参加したきっかけ

私はテレビでG7が訪れたニュースを目にしました。そこでは核兵器のない世界を目指すという方針が伝えられていました。そして、各国の首脳らが原爆ドームや資料館を訪れていました。首脳らが資料館にいた時間は約40分という短い時間でした。しかし、敵国だったアメリカがそこに訪れるということは日本への謝罪と共に平和な世界を目指そうという素晴らしいことで、広島の過去を知れる濃い時間だったと思います。そこで私も実際に首脳らが見てきた原爆ドームや資料館に行って原爆被害について学びたいと思いました。また、現在戦争中のウクライナの大統領が核の危険性、平和の大切さを訴えることができた場所なので私もそれを肌で感じてみたいと思ったことが私の「広島平和ツアー」に参加したいというきっかけです。

2. 原爆ドーム・資料館からの学び

実際の原爆ドームは、今だに生々しい焼け跡が残っています。約78年前に原爆が落とされたという事実を目にし、悲しみの気持ちで胸がいっぱいになりました。資料館で見た核兵器の模型やCGで表した原爆投下のシーン。一瞬にして、人々の生活、約14万人の尊い命が奪われ、そして今もなお、被爆者を脅かす放射線による病気が存在していること。たった一発の原爆が、世の中を大きく変えてしまったのです。他にも火傷を負った子供の写真、被爆者の遺品、原爆投下を描く絵画など見るたびに胸が苦しいです。この時代を生きていた人々の生活の様子や「辛い」という言葉だけでは表しきれない気持ちが伝わってきました。もう二度とこのような戦争を繰り返してはいけないと強く私は思いました。それと同時に、私達若者が世の中に核の恐ろしさを伝えなければならない理由を見つけたツアーになりました。

3. 広島平和ツアーを終えて

今回の広島ツアーで、原爆ドームや資料館を訪問するなど貴重な経験をすることができました。平和について深く考えることができた二日間でした。世界では核を保有している国はたくさんあります。被爆国日本の広島こそが核の怖さと平和の大切さを訴えることができる核兵器廃絶運動の原点の都市とも言えます。そんな場所だからこそ、私達は日本の過去としっかりと向き合い、平和について一人一人が考えることが大切だと私は思います。それが核の使用の削減にも繋がります。いつか、誰もが平和だと思える未来、核のない世界が訪れることを私は願っています。

